**安比高原の魅力**

牧草や森林の広がる安比高地（安比高原）では、風景を味わいながらのんびりと手軽にトレッキングを楽しめます。きちんと整備された散策ルートが「日本の森林浴の森100選」に選ばれた遊歩道沿いの神秘的なブナ林や、馬が草を食み、野の花が咲く高原へと案内します。毎年春になると、オレンジ色のツツジの花や、クラブアップルの白い花、スズランの花の海が広がります。夏にはヤナギランとアヤメが紫の花をつけ、秋には自生種のリンドウ、トリカブト、キキョウがさらに濃い紫や青の花をつけます。

今日、高原に隣接する森林に生えているブナの木は、80年前に木炭の製造や漆器の木地用に伐採されたブナの木の子孫です。漆器は今も地元の工芸品として生産され続けています。池や滝に出会える2時間から3時間の散策を楽しむのに、それほど装備や経験は必要ありません。もっと本格的な山歩きをするなら、こちらはどうでしょう。八幡平の安比高原は、この地域と岩手山を結ぶ有名な50kmトレイルの一部になっています。

岩手県北部のこの地域は、昔からずっと今の姿だったわけではありません。1000年以上前、安比の山肌は広大な森林で覆われていましたが、915年に火山が噴火し、森林の大半が焼け焦げてしまいます。その後数世紀にわたり、再生しつつあった土壌は農業のために開墾され、山肌の草地は農耕馬の牧草地として活用されました。15世紀から16世紀の戦国時代には、日本各地で内戦が繰り広げられ、この地で飼育された神立馬が戦いの前線で使用されました。今日、田園風景の中でのどかに草を食む姿が見られる馬たちの中には、武士の時代の歴史的な戦いを目撃した馬の子孫もいます。さらにここには、絶滅の危機に瀕している在来種の小型の木曽馬もいます。

第二次世界大戦後には、安比高原に畜牛が導入されます。ですが結局、低価格の輸入牛肉が地場産の牛肉の需要に打撃を与え、使役馬に代わってエンジンで動く農業機械が使用されるようになります。もはや馬や牛が草を食む姿は見られなくなり、高原の植物相がふたたび変わり始めます。低灌木、チマキザサ、木性の植物が牧草に取って代わるようになりました。1976年に牧草地は80ヘクタール以上ありましたが、20年以上後の1997年の牧草地は、約半分の44ヘクタールにまで減少しました。

2006年、市当局は林野庁と共同で、牧草地を取り戻すための持続可能な方法を研究し始めました。今日、その取り組みは地元企業やボランティアの支援を受け、そうした牧草地に在来馬を再導入し、約180ヘクタールの森林とまきばをだれでも楽しめるように整備しました。初心者向けのハイキングコースは、前森山（1,304メートル）山頂の少し手前にある安比雲海ゴンドラ山頂駅からスタートし、西森山（1,328メートル）、そして中のまきばへと続きます。地域の森林の生態系、バランスの取れた暮らしを学んだり、八幡平地域を訪れた人々がさまざまなアウトドア体験を楽しめる自然プログラムが豊富に用意されています。修学旅行や遠足のためのプログラムもあります。

安比高原の詳細についてはappi-japan.com、八幡平地区についてはhachimantai.or.jpをご覧ください。

安比高原の草原そばにある松尾八幡平ビジターセンターについては、hachimantai.or.jp/visitor\_centerをご覧ください。

岩手山、八幡平、安比高原を巡る50kmトレイルのモデルコースについては、env.go.jp/park/towada/hachimantai/course/course\_008/をご覧ください。

地元の工芸、安比塗については、appiurushistudio.comをご覧ください。

岩手県全域の観光情報については、visitiwate.comをご覧ください。